



# 十西小だより

弥富市立十四山西部小学校  
学校だより 第31号



令和元年12月4日

## 人権集会 -12月2日(月)-

12月10日は「人権デー」で、日本では、この日を最終日とする1週間を「人権週間」と定めています。本校でも、4日からの「人権週間」に向けて、人権集会を行いました。まず、児童代表が人権に関する標語を発表しました。

そのことば	あいてのきもちを	かんがえて	1年
わすれない	あの子がいった	やさしいことば	1年
やらないよ	人にされたら	いやなこと	2年
おもしろい?	ほんとにその子	わらってる?	2年
やめようよ	自分がされて	いやなこと	3年
気づいてる?	相手が言った	その言葉	3年
一人だけ	仲間外れは	いじめのもと	4年
やらないで	いじめは心を	きずつける	4年
気づいてよ	仲間外れが	いるんだよ	5年
差別無し	どんな人にも	歩みよろう	5年
君は楽しい?	きっとあの子は	楽しくないよ	6年
自分から	言葉の勇気	「このままじゃダメ」	6年

次に、「いじめをなくすために、今」という、中学生の人権作文を原作として映像化したビデオを視聴しました。いじめをしている友達になかなかやめるように言えなかった主人公が、父親の死をとおして命の大切さを見つめ、勇気を出して声をかけ、いじめをやめさせる物語です。最後に、心ない言葉をかけられるとなぜ心が痛むのか、言葉のもつ力についてみんなで話し合いました。人権集会を終えた感想を紹介します。

「死ね」という言葉は、一番心が痛いと思いました。これからは、悪い言葉や悪いことは言わないようにします。自分の命は一つしかないので、自分でしっかり守っていきたいです。(1年)

いじめは、人がいやがることなので、これからは、いじめられている人がいたら助けてあげたいです。言葉で人の気持ちが変わるので、人がいやがる言葉は言わない方がいいと思いました。これからは気をつけたいです。(3年)

集会を終えて、わたしは、いじめはされた人もいじめをやった人もみんないやな気持ちになると気づきました。きえろ、死ね、バカなどの心に傷つく言葉を言うと、いじめをされた人がとてもいやな気持ちになると思いました。私が一番心に残ったことは、「手や足は人を助けるために使う」という言葉です。これからいじめをされた人がいたら助けてあげたいと思いました。(4年)



主人公の子は、すぐには言えなかったけど、お父さんがいなくなって、それからずっと考えて言えたから、やさしいなと思いました。自分もいじめられていた子を助けてあげたいです。(2年)

映画を見て私は「死」という言葉の重さが分かりました。もし私が主人公の立場だったら、いじめはだめとなかなか言えないと思います。でも、これから私は、もしだれかがいじめられたり、「死ね」という言葉を使ったりしていたら、「だめだよ」と言える人になりたいと思いました。(6年)

私は多分、クラスなどで「いじめ」があっても「もし私が先生に言ったら、次に自分がいじめられるかもしれない」と思い、先生には絶対に言えないと思いました。けれど、今回の動画を見て、「自分が勇気を出すことによって、もしかしたらだれか一人でも救えるかもしれない」、そう思いました。もし、いじめられている子がいたら、勇気を出してその子を助けたいと思いました。直接無理なら、せめてその子の力になりたいと思いました。(5年)